

高度なニーズに素早く対応 クロム製造国内オンリー1

JFEマテリアル株式会社
代表取締役社長

鷲尾 勝氏



鉄鋼の中で、クロム系合金鉄（フェロクロム）を製造する国内唯一のメーカーです。

クロムは鉄に混ぜることで耐摩耗性や耐熱性、耐食性を高めることから、色々な鋼材に添加されています。大別すると、一般的な製鉄に用いる低炭素フェロクロムと、特殊金属を作るための高純度の金属クロムに分けられます。

以前は国内でクロムを作る会社

が複数あったのですが、不況時に撤退してしまいました。現在、一般鋼材向けはインド、カザフスタン、ロシアなどで作っていますが、高純度の特殊フェロクロムを作っているのは、世界で当社とドイツ企業の2社だけです。

どの様な用途に使われていますか。一般的なクロムを添加して性能を強化した鋼材でよく知られているのはステンレスです。もう一つ

の特殊金属としては、ジェット機やロケット、発電所のタービン等、長時間高温下にさらされるなど過酷な条件でも耐えられる素材で、例えばインコネルなどを作るための原料です。お客様の目的に応じたクロムを製造しています。

納入先はどちらへ？

特殊用途向けは世界で2社だけなので、各国で競争しています。

一般鋼材用クロムはJFEグループに限らず、国内の製鉄メーカー各社に納めています。

どのような要望がありますか。

廉価な輸入品が入ってくるので、お客様の声を聞くことが重要です。自動車向け鋼材ですと、例えば「新型車種のボディを軽くしたい」という要望に、より薄くて強い、しかも均一性を保てる素材を、どれだけ早く提供できるかが勝負になってきます。日本のものづくりの要求は特に高度ですから、それに迅速に対応していくことがかぎです。

鉄鋼業界の動向について教えてください。

鉄は景気の波に合わせて好不調を繰り返していますが、バブル経済崩壊後、多くの製鉄所が停止し、2003年には川崎製鉄と日本鋼管が統合再編してJFEスチールができたのはご存知の通りです。

その後も好況、リーマンショックなどと繰り返すのですが、世界の粗鋼需要はずっと増加しています。しかし、中国が生産過多です。世界の粗鋼生産量が16億トンで、中国が8億トン、日本は1億トン。新興国のGDPが上がり、粗鋼需要は増加しているのですが、中国の供給過剰のため、鉄が余っている状態が続いています。

製鉄メーカーは、日本のものづくりメーカーと一緒に、日本連合

で取り組んでいかななくてはならないと思っています。

—世界と戦いシェア伸長図る—

クロム製造のほかにも手がけていらっしゃるのでしょうか。

当社の売上高の70%弱がクロムで、一般鋼材向けが50%、特殊金属向けが20%です。このほか、製油所や発電所の廃棄物からバナジウム、モリブデン、ニッケルなどの有価金属を回収再生する事業も行っていて、約30%。プラスチックの部品製造も1.5%程度行っています。

今後の見通しはいかがですか。

製鉄業は設備投資による固定費が大きいため、これまでは規模のメリットを追いかけましたが、現在の中国企業とは勝負になりません。日本の製鉄メーカーが生き残っていくためには、国内の高い要求に応えられる素早さが必要だと感じています。

そのような状況の中、2017年までの中期計画で売上30%増を掲げています。鋼材向けクロムは輸入品が多く、現在の国内シェアは4割程度ですが、5割に伸ばしたいと思っています。また、高付加価値の特殊クロムも伸ばしていきます。インコネルなどの特殊合金用途は現在シェア3割程度ですが、これを5割までに伸ばしていく必要があると考えています。

略歴

1958(昭和33)年2月生まれ。兵庫県出身。1982年大阪大学大学院工学研究科冶金工学修了後、川崎製鉄(株)入社。2004年JFEスチール(株)東日本製鉄所製鋼部長、西日本製鉄所企画部長、第1原料部長などを経て、2012年4月からJFEマテリアル(株)社長。2016年4月日本製鉄(株)常勤顧問、6月社長に就任予定。

—女性登用・中途採用で活性化—

JFEスチールから、2012年に社長に赴任され、この4年間に取組まれたことは？

赴任した時に、伸びしろがある会社だと感じ、最初に受注を増やすことから始めました。まず、製鉄所で働いていた経験を生かし、設備投資をして、工場の生産能力を増強しました。一方で、営業力も強化しました。親会社の原料部長をしていたので、製鉄各社の担当者と顔見知りだったことも幸いしました。同時に、技術部門と営業部門のコミュニケーションを図るようになり、お互いの信頼関係を大切にしました。

円安の追い風もあって、輸入品から切り替えてもらったこともあり、赴任当時1万8,000トンだった生産量が、現在は2万3,000トンに増えています。良い循環になっていると思います。

3割近くもの増産です。

そのため忙しくなり、ただ頑張れと言うだけでは限度があるので、配置換えをして能力が発揮できるようにしたり、ここ2年間はホワイトカラーの中途採用を積極的に採用したりして、体制を強化しました。生産管理や技術部門で、新しい考え方でやる気のある人が入ってくると、現場が活性化してきたように思います。



女性の活躍について伺います。

現在、女性社員は20名で、リーダー直前の人が複数います。男女を分けること自体が間違いで、私が当社へ着任してから作業服も、人事考課も、処遇も一緒にしました。事務職の女性に責任ある仕事を任せ、活躍してもらっています。座右の銘を教えてください。

プロ野球の野村克也元監督の「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」。物事の結果には必ず原因があります。環境の善し悪しを言い訳にたくはありません。

経営者をやっていると、色々と受け入れたくないことも上がってきます。それを後から知るのではなく、常に自分で見て、聞いて、把握して、結果を予測しておく。原因を突き止め、指示を出さなければいけません。その原因も自分で作っていると肝に銘じています。間違いを正すときにも、どういう視点からやり直すのかを指示して、納得してもらうようにしています。(2016年3月インタビュー)

会社概要

JFEマテリアル株式会社

創業：1917(大正6)年電気製鉄(株)が創業、1919年日本鋼管(株)に合併、1999年エヌケーケーマテリアル(株)として分社、2003年現社名に変更

所在地：射水市庄西町2-9-38

資本金：4億5,000万円

事業内容：フェロクロムを主とした合金鉄、高純度金属クロムの製造・販売、有価金属の回収、プラスチック製品の製造・販売

従業員数：220名

売上高：149億円(2016年3月期予想)

事業所：東京事務所、

ニューヨーク事務所

関連会社：(株)メタルテクノロジー

URL：http://jfe-material.jp